



病院には どんな仕事があるのかな？

病院は、病める人を社会復帰させることを目的とし、医師をはじめとする多くの職員の連携と協力による「チーム医療」に取り組んでいます。病院の中には、さまざまな業務があります。

医局・看護部・薬剤部・検査科・栄養管理室・放射線科・リハビリテーション科・臨床工学科・事務部・地域連携室などで働いている専門職種がチーム組んで、それぞれの専門分野での経験や知識、技術を集約して、患者さんに最も適した最新の治療にあたっています。

また、適切なアドバイスや必要な情報提供を行って早期社会復帰への手助けをしています。

FILE: 06 作業療法士 Occupational therapist

働いている方に
INTERVIEW

作業療法士の仕事

～ 作業療法士・加藤さんに聞いてみた ～

作業療法士を目指した理由

元々、人の役に立てる仕事に就きたいと考えていました。高校3年生になり進路相談のときに病院で働いている職種を母や担任の先生からたくさんあるということを知ってもらいました。その中でも作業療法士という職種は、患者さんの身体面だけでなく精神面や環境などに目を向け関わり、その人らしい生活を送れるためのお手伝いをしていくという部分に興味を持ち、作業療法士を目指すようになりました。

業務内容は？

食べたり着替えたりトイレに行ったりお風呂に入ったり、そのような誰もがやっている動作を「作業」と呼んでいます。病気や怪我、もしくは生まれながらに障害のある人に対して①基本的動作能力(運動や感覚、精神・認知などの心身機能)、②応用的動作能力(トイレやお風呂など)、③社会的適応能力(地域への参加や就職・就学など)を維持・改善し「その人らしい」生活が送れるように支援していきます。病院では急性期・回復期・生活期と様々な時期に応じて作業療法士としての関わりも変化していきます。

1. 急性期の作業療法

病気や怪我の直後よりリハビリテーションを開始します。この時期は病状が安定していないことも多くあるためリスク管理を行いながら介入していきます。また、状態に合わせて心身の基本的な機能の改善を援助し、新たな機能低下を予防するため支援します。

2. 回復期の作業療法

急性期のときと比べ病気や怪我の状態が安定し、退院

作業療法士
加藤 佑季
(4年目)



後の生活をより具体的に想像しながら機能や能力の改善を図っていきます。今後、生活をしていくために必要な能力を再獲得、もしくは新たな手段の獲得を行い、その人その人に応じた生活の方法を習得するための支援を行います。

3. 生活期の作業療法

その人が住み慣れた地域や場所で、その人なりの生活を送っていくための支援を行います。それぞれが、生活の中で生きがいを持ち、より豊かに生きていくために支援を行っています。

目標・やりがい

作業療法士は総合病院や精神科病院、小児病院などの医療施設以外にも、介護老人保健施設や訪問リハビリテーション事業所、児童デイサービス、特別支援学校、保健所などさまざまな機関で活躍することができます。その中でも私は医療機関を選択しましたが、どの場所でもその人の大切に思っていること、意味のあることなどを把握し、心に寄り添い耳を傾けながら関わり、人となりを理解することは重要ではないかと思っています。患者さんだけでなく、そのご家族様に対しても同じです。臨床の現場では多くの面で「まだまだだな。」とスキル不足を痛感することや悔しくなることの方が多い毎日ですが、その人がその人らしい生活を送ることができ、患者さんやご家族様の笑顔を少しでも多く引き出すことができる作業療法士になれるよう努力していきたいと思っています。